

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『高い人間力と明確な目標を持ち、弛まぬ努力をする生徒を育てる学校』。キャッチフレーズは『やる気と元気の溢れる芥川』。

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」を持った生徒の育成 <「学力向上」と「希望進路実現」を確かな歩みで>
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <「使える英語力」と「国際感覚」を育てる教育がベース>
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成 <「体験学習」の充実や「学校行事、部活動」の振興、「規範意識」の醸成や「人権意識」の向上を中心に>

2 中期的目標

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成 <「学力向上」と「希望進路実現」を確かな歩みで>
 - (1) 「学力の向上」(授業力向上による授業改善、学習環境整備等)
 - ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。
 - イ ICT を活用した授業改善についての研究を推進する。
 - ウ 自学自習力をつける。

* 授業アンケートの結果、授業満足度は平成 27 年度が 75.4%。これを引き上げ、平成 30 年度には 80%とする。
 - (2) 「希望進路の実現」
 - ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。
 - イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。

* 四年制大学現役進学率は平成 26 年度で 53.4%、うち関関同立現役合格数は 19。これを引き上げ、平成 30 年度にはそれぞれ 65%、45 とする。
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <「使える英語力」と「国際感覚」を育てる教育がベース>
 - (1) 「使える英語力の育成」
 - ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。
 - イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、日本英語検定等の資格取得や英語学力調査得点率向上をめざす生徒を増やす。

* 平成 27 年度の英語検定資格取得者は第 2 回終了時点で 28 人、英語学力調査で全国平均以上は 53.7%。平成 30 年度にはそれぞれ 60 人、60%とする。
 - (2) 「国際感覚の育成」
 - ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
 - イ 海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。

* 生徒向け学校教育自己診断における、国際理解教育に対する肯定率は平成 27 年度が 73.2%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 80%とする。
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成<「体験学習」の充実や「学校行事、部活動」の振興、「規範意識」の醸成や「人権意識」の向上を中心に>
 - (1) 「体験学習の充実」
 - ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。
 - イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。

* 生徒向け学校教育自己診断における、地域との関わりに対する肯定率は平成 27 年度が 73.5%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 80%とする。
 - (2) 「学校行事、部活動の振興」
 - ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。
 - イ 部活動の活性化を図る。

* 部活動加入率は平成 27 年度が 80.7%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 85%とする。
 - (3) 「規範意識の醸成」
 - ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。
 - イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。

* 生徒向け学校教育自己診断における、規範意識に関する設問の肯定率は平成 27 年度が 91.9%。平成 30 年度まで 90%以上の水準を維持する。
 - (4) 「人権意識の向上」
 - ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に人権教育を推進する。

* 生徒向け学校教育自己診断における、人権教育に対する肯定率は平成 26 年度が 80.9%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 85%とする。
- 4 信頼される学校づくり(教員力と情報発信力の向上)
 - (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。
 - (2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。
 - (3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。

* 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率は平成 27 年度が 81.3%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 85%とする。

* 保護者向け学校教育自己診断における、情報発信に対する肯定率は平成 27 年度が 85.1%。これを毎年引き上げ、平成 30 年度には 90%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目「本校に入学してよかった」(生徒)の肯定率 86%(H27;90%)、「入学させてよかった」(保護者)の肯定率 93%(H27;93%)と高水準を維持しているが、前年度比若干低下した為、生徒・保護者の願いに応える更なる工夫ときめ細やかな対応が求められる。 ・質問項目「進路を考えるための情報を十分に提供している」に対する肯定率は生徒 84%、保護者 82%と水準は高いが、教員の肯定率 94%と比べれば低い。より生徒のニーズにあった情報提供をしていきたい。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の満足度に対する質問では生徒向け 68%、保護者向け 70%が肯定的な意見を持っている。一方で教員向けの「わかりやすい授業をする為に工夫を積極的に行っている学校である」との質問に対する肯定率は 89%と高くギャップがある。全体的に教員の授業力は向上していることは伺える為、教員の工夫や努力がまだ十分に生徒に浸透していない部分が今後の課題と考えられる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目「学校へ行くのが楽しい」の肯定率は生徒 83%、保護者 85%と高く、質問項目「校則を守っている」の肯定率も生徒 93%、保護者 93%と高く、生徒が安心して学校生活を送れる落ち着いた環境ができていていることを示している。但し、SNS 関連の特別指導が前年度比増加している為、情報モラルについての指導が今後の課題である。 | <p>【第 1 回】H28. 6. 29(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時点の進路希望を叶える、行きたいところに行けるようにきめ細やかに指導しているようだ。 ・スマホ依存は全国的な悩みであり、便利なツールだが、どう使っていくのが大切。「情報」の授業の重要度が増している。 ・グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく検討をしてはどうか。 ・今後 ICT を使った授業展開を具体的にどうしていくのかを検討してほしい。 <p>【第 2 回】H28. 11. 2 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングは目的でなく、方法として取り入れていけばよいのではないかと。 ・CAN-DO リストを用いて、目標設定をして何ができるようになったのかを評価すれば、生徒のモチベーション向上に繋がるのではないかと。 ・学校新聞は他校にも模範になる素晴らしいものなので、これからも続けてほしい。 ・自学自習力をつける取組みに期待したい。部活動との両立で忙しくなり学力が下がってしまう生徒がいるので、自律的に学習できる勉強方法を指導してほしい。 <p>【第 3 回】H29. 2. 10 (金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生の職業別ガイダンスの講師をこれだけ多くの卒業生を呼んで行っているのは素晴らしい。今後も続けてほしい。生徒からの感想も素晴らしい。 ・2 年生の分野別ガイダンスを生徒のことをよく知っている教員が説明するのは効果的で、手作り感が良い。 ・3 年生は卒業時に芥川高校に満足したかをアンケートで聞くとよい。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------|---|---|--|---|
| 「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成 | <p>(1) 学力の向上</p> <p>ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。</p> <p>イ 若手教員の授業力を向上させる。</p> <p>ウ 自学自習力をつける。</p> <p>(2) 希望進路の実現</p> <p>ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。</p> <p>イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p> | <p>ア・年度当初に「授業改善に向けた本年度の共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、評価・育成システムを活用しながら、各教科及び教員ごとに PDCA サイクルに沿ってこれを運用する。</p> <p>・校長通信等を通じて、授業改善の手法や考え方等の情報を発信するとともに各種研修への参加を奨励し、教員が自発的に授業改善に取り組む環境を整備する。</p> <p>イ・若手教員を授業者としその他の教員を生徒に見立てた研究授業や大学教員、近隣中学校教員等を講師とした研修会を実施する。</p> <p>・ICT授業展開のための環境を整備する。</p> <p>ウ・自習室及び質問スペースの活用を促進する。</p> <p>・自学自習に適した電子教材等の活用を推奨するとともに帰宅後の時間をより有効に活用することをめざした調査やキャンペーンを展開し、生徒の自宅学習時間の増加を図る。</p> <p>ア・「憧れる存在を見つけよう」をコンセプトとし社会に貢献する自分像を明確にイメージすることを目的として、直近の卒業生による進路講話や卒業生を講師とした職業別ガイダンス等を実施する。</p> <p>イ・学力分析システムを活用した懇談等きめ細かい進路指導を充実させる。</p> <p>・大学入試結果を詳細に分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。</p> <p>・PTA学年懇談会等の機会を活用して進路講話等を実施し、保護者にも早期から生徒の希望進路実現に向けた意識を高めていただく。</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 70%以上。(H27 ; 63.3%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目)78%以上。(H27 ; 75.4%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 78%以上 (H27 ; 74.0%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 90%以上。(H27 ; 88.3%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 90%以上。(H27 ; 85.4%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。(H27 ; 80.9%)</p> <p>・四年制大学現役進学率 60% (H27 実績 ; 53.4%)</p> | <p>ア・教科指導への肯定率は 68.0%と 70%の目標には届かず。授業力向上が組織的な動きになりきれていないことが一因と考えられる。次年度への課題とする(△)</p> <p>イ・満足度は 75.8%と昨年度より向上したが、目標数値には至らず。若手教員の授業力向上や授業相互見学等の有効な仕組み作りを再度検討したい。(△)</p> <p>ウ・1回目 75.0%、2回目 75.5%と昨年度の実績を上回ったが、目標の 78%には届かず。自学自習のより一層の定着に向けて効果的な課題設定や時間の有効利用を促進する指導に取り組みたい。(△)</p> <p>ア・満足度は前年度と同水準の 87.4%と高水準を維持。次年度は2年生の総合的な学習の時間で進路指導やキャリア教育を充実させるなど、より有効な指導を推進したい。(△)</p> <p>イ・生徒の満足度は 83.8%と目標に達しなかったが、高水準を維持。保護者の満足度は 82.3%と前年度比向上。大学別進路説明会や就職指導等きめ細かい指導を行っているが、より一層ニーズに合ったものにして、生徒の希望進路を実現させたい。(△)</p> |
| | グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 | <p>(1) 使える英語力の育成</p> <p>ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。</p> <p>イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> <p>(2) 国際感覚の育成</p> <p>ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。</p> <p>イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。</p> | <p>ア・グローバル専門コース選択科目の授業において、高大連携による特別授業の拡充や留学生との交流などの新たな取り組みを検討するとともに、学習成果の発表の機会を設ける。</p> <p>イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒には全員英語学力調査受験機会を与える。</p> <p>ア・外国語指導員(NET)や関係大学の協力を得て生徒が主体となって企画運営する交流機会をつくる。</p> <p>イ・台湾修学旅行を継続実施し、現地の高校生や日本文化を学ぶ大学生との交流事業をさらに充実させる。</p> | <p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 85%以上。(H27 ; 81.3%)</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数 50人以上。(H26 ; 48人)</p> <p>ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 85%以上。(新規)</p> <p>イ・台湾修学旅行における国際交流活動への満足度 90%以上の水準維持。(H27 ; 92.0%)</p> |

府立芥川高等学校

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---------------------------|--|--|--|--|
| 「豊かな人間力」を持った生徒の育成 | <p>(1) 体験学習の充実</p> <p>ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。</p> <p>イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。</p> <p>(2) 学校行事、部活動の振興</p> <p>ア 学校行事の地域等への公開を促進させる。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 規範意識の醸成</p> <p>ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、生徒が主体的にルールやマナーを守ることができるようにする。</p> <p>イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。</p> <p>(4) 人権意識の向上</p> <p>ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にす人権教育を推進する。</p> | <p>ア・施設との連携強化により、保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導の充実を図る。</p> <p>・運動会や親子交流行事など保育園行事への実習参加を促進する。</p> <p>イ・地域主催行事等へのボランティア参加や近隣中学校との部活動交流を拡充する。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・新入生入部率向上を図るとともに、近隣の学校園や施設、団体との連携を深める。</p> <p>ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。</p> <p>・遅刻指導、携帯電話スマホ指導においては、保護者の協力のもとルールやマナーを遵守させる指導をさらに充実させる。</p> <p>イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、専門機関等の協力のもと規範意識を向上させるための指導を行う。</p> <p>ア・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にす教育を実践する。</p> <p>・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。</p> | <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 75%以上。(H27 ; 73.2%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 75%以上。(H27 ; 73.5%)</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への外部招待者数を 10% 向上させる。(H27 ; 1,895 人)</p> <p>イ・部活動加入率 80%以上。</p> <p>ア・懲戒件数、10 件以下。(H27 ; 2 件)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準維持。(H27 ; 91.9%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 85%以上。(H27 ; 80.9%)</p> | <p>ア・肯定率は 78.5%と前年度、目標数値共に上回った。老人ホーム実習の事前学習等の工夫したことが結果にでたものと考えられる。(◎)</p> <p>イ・肯定率は 75.4%と目標数値を上回った。近隣中学校との部活動交流や各クラブの地域行事への参加などの交流機会を増加させたことが結果に繋がった。(○)</p> <p>ア・外部招待者数は合計 1,729 人と前年度比減少。体育祭が雨で延期となったことも減少要因と考えられる。次年度も広宣方法を工夫して地域連携を充実させたい。(△)</p> <p>イ・新入生入部率は 89%と過去最高を記録した。全体の入部率は 78%と目標数値には若干及ばないが、部活動は活発に活動中。(○)</p> <p>ア・懲戒件数は 7 件であった。引続き生徒の自主性を尊重しつつ保護者と連携した生徒指導を継続したい。(○)</p> <p>イ・肯定率は 92.6%と前年度及び目標数値を上回った。交通ルールやマナーの指導や生徒指導全般において指導が浸透してきたものと考えられる。引続きこの水準を維持していきたい。(◎)</p> <p>ア・肯定率は 84.9%と前年度数値を大幅に上回り目標数値となった。タイムリーな講演会の企画と実施、身近な人権に関する問題を見逃さないで指導したことが要因。次年度も SNS 利用にあたっての情報モラル学習の徹底を図りたい。(○)</p> |
| 信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上) | <p>(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。</p> <p>(2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。</p> <p>(3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。</p> | <p>・今日的な教育課題や業務の円滑化・連携強化につながる教員研修の充実を図る。</p> <p>・若手教員が中心となって企画運営する、教員の自主研修の充実を図り、若手教員が学校課題解決方策を提案できるようにする。</p> <p>・より魅力あるホームページをつくり、タイムリーに必要な情報を発信する。</p> <p>・新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え、地域及び学校園向け広報を充実させる。</p> <p>・中学生やその保護者の興味や関心を的確に把握し、学校説明会や中学校への情報提供等をよりタイムリーかつニーズに合致したものにする。</p> <p>・進路指導の内容や進路実績等の資料を学習塾に向けて発信する。</p> | <p>・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率 85%以上。(H27 ; 81.3%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率 90%。(H27 ; 85.1%)</p> <p>・学校メールマガジンの配信 65 回 (H28.1.31 現在 ; 57 回)</p> <p>・連携関係にある学校、施設、自治会等への新聞の配布・掲出回数、年間 10 回以上の水準維持。(H27 ; 10 回)</p> <p>・学校説明会等の参加者数 2,100 人以上。(H27 ; 2,159 名)</p> | <p>・肯定率は 76.1%と前年度を下回った。教員が「チーム芥川」として一層チーム力を向上できるような組織作りや研修等を実施していきたい。(△)</p> <p>・肯定率は 86.0%と前年度を上回り高水準を維持。学校ホームページや新聞「芥川」の更なる充実、メールマガジンによるタイムリーな情報提供を行っていきたい。(△)</p> <p>・メールマガジン配信回数は 59 回。次年度も情報をタイムリーかつ、わかりやすく提供することを心がけたい。(○)</p> <p>・配布・掲出回数は 13 回と発信回数を増加させた。地域との連携を重視した有効な広報につとめたい。(◎)</p> <p>・学校説明会等の参加者数は 1,815 人。目標数値は達成できなかったが、中学生の参加者は増えた。次年度も適切な開催時期に中学生のニーズに合致した説明会等を開催していきたい。(△)</p> |